

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道17号 <small>じょうぶどうろ</small> 上武道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 関東地方整備局																									
起終点 自：埼玉県熊谷市西別府 至：群馬県前橋市田口町		延長 40.5km																									
事業概要 国道17号は東京都中央区を起点として、さいたま市、高崎市、前橋市等の主要都市を通過し、新潟市に至る延長約370kmに主要幹線道路である。上武道路は埼玉県と群馬県を結ぶ地域高規格道路「熊谷・高崎・太田・伊勢崎周辺における市街地の混雑緩和や周辺地域の活性化などを目的に計画された、延長40.5kmのバイパス事業である																											
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">S45年度事業化</td> <td style="width: 25%;">S45年度都市計画決定</td> <td style="width: 25%;">S49年度用地着手</td> <td style="width: 25%;">S50年度工事着手</td> </tr> </table>			S45年度事業化	S45年度都市計画決定	S49年度用地着手	S50年度工事着手																					
S45年度事業化	S45年度都市計画決定	S49年度用地着手	S50年度工事着手																								
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">全体事業費</td> <td style="width: 25%;">約1,800億円</td> <td style="width: 25%;">事業進捗率</td> <td style="width: 25%;">87%</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td style="width: 25%;">供用済延長</td> <td style="width: 25%;">37.0km</td> </tr> </table>			全体事業費	約1,800億円	事業進捗率	87%			供用済延長	37.0km																	
全体事業費	約1,800億円	事業進捗率	87%																								
		供用済延長	37.0km																								
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">計画交通量</td> <td colspan="3">21,800~47,800台/日</td> </tr> </table>			計画交通量	21,800~47,800台/日																							
計画交通量	21,800~47,800台/日																										
費用対効果分析結果	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px solid black;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">B/C</td> <td style="width: 50%;">1.2</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">(事業全体)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(残事業)</td> <td style="border-top: 1px solid black;">9.7</td> </tr> </table> </td> <td style="width: 50%; border-right: 1px solid black;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">総費用</td> <td style="width: 50%;">(残事業)/(事業全体) 202/3,228億円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(事業費)</td> <td style="border-top: 1px solid black;">141/3084億円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(維持管理費)</td> <td style="border-top: 1px solid black;">61/143億円</td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">B/C</td> <td style="width: 50%;">1.2</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">(事業全体)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(残事業)</td> <td style="border-top: 1px solid black;">9.7</td> </tr> </table>	B/C	1.2	(事業全体)		(残事業)	9.7	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">総費用</td> <td style="width: 50%;">(残事業)/(事業全体) 202/3,228億円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(事業費)</td> <td style="border-top: 1px solid black;">141/3084億円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(維持管理費)</td> <td style="border-top: 1px solid black;">61/143億円</td> </tr> </table>	総費用	(残事業)/(事業全体) 202/3,228億円	(事業費)	141/3084億円	(維持管理費)	61/143億円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">総便益</td> <td style="width: 50%;">(残事業)/(事業全体) 1,956/3,905億円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(走行時間短縮便益)</td> <td style="border-top: 1px solid black;">1663/3373億円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(走行費用減少便益)</td> <td style="border-top: 1px solid black;">220/435億円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(交通事故減少便益)</td> <td style="border-top: 1px solid black;">73/98億円</td> </tr> </table>	総便益	(残事業)/(事業全体) 1,956/3,905億円	(走行時間短縮便益)	1663/3373億円	(走行費用減少便益)	220/435億円	(交通事故減少便益)	73/98億円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">基準年</td> <td style="width: 50%;">平成26年</td> </tr> </table>	基準年	平成26年
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">B/C</td> <td style="width: 50%;">1.2</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">(事業全体)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(残事業)</td> <td style="border-top: 1px solid black;">9.7</td> </tr> </table>	B/C	1.2	(事業全体)		(残事業)	9.7	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">総費用</td> <td style="width: 50%;">(残事業)/(事業全体) 202/3,228億円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(事業費)</td> <td style="border-top: 1px solid black;">141/3084億円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(維持管理費)</td> <td style="border-top: 1px solid black;">61/143億円</td> </tr> </table>	総費用	(残事業)/(事業全体) 202/3,228億円	(事業費)	141/3084億円	(維持管理費)	61/143億円														
B/C	1.2																										
(事業全体)																											
(残事業)	9.7																										
総費用	(残事業)/(事業全体) 202/3,228億円																										
(事業費)	141/3084億円																										
(維持管理費)	61/143億円																										
総便益	(残事業)/(事業全体) 1,956/3,905億円																										
(走行時間短縮便益)	1663/3373億円																										
(走行費用減少便益)	220/435億円																										
(交通事故減少便益)	73/98億円																										
基準年	平成26年																										
感度分析の結果 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">【事業全体】 交通量：B/C=1.00~1.5 (交通量 ±10%)</td> <td style="width: 50%;">【残事業】 交通量：B/C= 8.0~11.8 (交通量 ±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業費：B/C=1.1~1.3 (事業費 ±10%)</td> <td>事業費：B/C= 9.0~10.4 (事業費 ±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業期間：B/C=1.1~1.3 (事業期間± 3年)</td> <td>事業期間：B/C= 9.0~ 9.2 (事業期間± 3年)</td> </tr> </table>			【事業全体】 交通量：B/C=1.00~1.5 (交通量 ±10%)	【残事業】 交通量：B/C= 8.0~11.8 (交通量 ±10%)	事業費：B/C=1.1~1.3 (事業費 ±10%)	事業費：B/C= 9.0~10.4 (事業費 ±10%)	事業期間：B/C=1.1~1.3 (事業期間± 3年)	事業期間：B/C= 9.0~ 9.2 (事業期間± 3年)																			
【事業全体】 交通量：B/C=1.00~1.5 (交通量 ±10%)	【残事業】 交通量：B/C= 8.0~11.8 (交通量 ±10%)																										
事業費：B/C=1.1~1.3 (事業費 ±10%)	事業費：B/C= 9.0~10.4 (事業費 ±10%)																										
事業期間：B/C=1.1~1.3 (事業期間± 3年)	事業期間：B/C= 9.0~ 9.2 (事業期間± 3年)																										
事業の効果等 ①周辺地域の活性化、地域づくりの支援 ・上武道路の事業化（昭和45年）以降、上武道路沿線には多くの工業団地が立地している。立地企業者へのヒアリングによると、関東地方の他、東北・東海地方など広域エリアとの搬入・搬出が見られる。 ②地域間交流の促進 ・上武道路の整備により、熊谷市役所～渋川市役所間の所要時間が128分⇒75分と53分短縮される。 ③交通混雑の緩和 ・国道17号現道、上武道路および国道50号の一部の損失時間は111.0千人時間/年・kmであり、全国平均（26.3千人時間/年・km）の約4倍。特に上武道路の未開通区間と並行する区間は200.2千人時間/年・kmと全国平均の約8倍である。 ・上武道路の整備により、交通の円滑化が図られ、渋滞緩和が見込まれる。 ④安全安心な通行の確保 ・国道17号現道、上武道路および国道50号の一部の平均死傷事故率は104.0件/億台・kmであり、全国平均（102.0件/億台・km）と比べてやや高くなっている。特に上武道路の未開通区間と平行する区間は、1079.1件/億台・kmと全国平均の約11倍となっている。 ・事故類型別では交通渋滞に起因した追突事故が国道17号現道及び国道50号の区間で65%を占めている。上武道路の整備により、交通の円滑化が図られ、交通事故の減少が見込まれる。																											
関係する地方公共団体等の意見 群馬県知事の意見：上武道路は、県内の産業立地や雇用の創出など本県の経済活性化にとって極めて重要な路線である。未供用区間（8-2工区）について、強力に事業促進し、一日も早い全線開通をお願いしたい。また、埼玉県境の新上武大橋及び国道50号以北の暫定2車線区間の4車線化についても早期整備をお願いしたい。さらに、事業実施にあたっては、コスト縮減を徹底し、効率的、効果的に事業を促進されたい。 埼玉県知事の意見：上武道路は、埼玉県北部から群馬県中北部における地域間交流を支える重要な道路です。対象区間の完成のため、事業の継続が必要です。なお、事業実施にあたっては、コスト縮減に努めていただきたい。																											
事業評価監視委員会の意見 事業の継続を承認する。																											
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・北関東自動車道（太田桐生IC～佐野田沼大田桐生IC）が平成23年3月に開通され、北関東自動車道が全線開通。 ・国道354号バイパス（東毛広域幹線道路）が平成26年8月に全線開通。																											

